

歯周医学実習

Training of Periodontal Medicine

キーワード

- ① 口腔統合医療学
- ② 歯周医学
- ③ 歯周病と糖尿病
- ④ 歯周病と栄養

授業概要

歯周病は、糖尿病の合併症であると同時に歯周病の重症化は、糖尿病の発症、悪化のリスク因子でもあることが明らかにされている。この他にも、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）や心血管疾患などが候補として挙げられる。ここでは、歯周病および歯周病に関わる全身疾患の医科歯科連携および歯周病の宿主修飾治療に関する研究手技の解説と実習を行い、研究テーマを立案する能力の高度化をはかる。特に、歯周病重症度と非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）重症度の関連性、歯周病重症度と糖尿病およびその合併症との関連性について検討材料に、歯周医学の知識の深化を実習を通じて養成することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

歯周病に起因した感染、炎症、咀嚼障害は、糖尿病およびその合併症や消化器疾患と関連している。歯周医学は、歯周病が全身にどのような関わりを持つか、あるいは、全身疾患が歯周病にどのような影響を与えているかを研究し、健康寿命の延伸に生かす学問であり、実習を通して必要な知識、態度、技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① 歯周医学研究計画立案実習 12コマ
実習を通して問題発見能力、仮説の立て方を育成するとともに、研究計画の立案の基本を教授する。
- ② 歯周医学に関連した疫学研究手法実習 12コマ
歯周病と糖尿病およびその合併症に関する疫学研究に必要な解析手法を教授する。
- ③ 歯周医学に関連した臨床介入研究手法実習 12コマ
歯周病と糖尿病およびその合併症に関する臨床介入研究に必要な解析手法を教授する。
- ④ 歯周医学に関連した動物実験学実習 12コマ
実験的歯周炎モデルの作成法と効果判定、評価法の手技を教授する。
- ⑤ 歯周医学に関連したプレゼン実習 12コマ
歯周医学に関連した文献考察、Review、プレゼン法を教授する。

実習担当教員 三辺正人 青山典生 田村利之 金指幹元 吉巻友裕

教科書および参考書

歯周病と全身の健康、糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン 日本歯周病学会編

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習前には、実験プロトコルについて指導教員に確認を受け、理論および手技を予習して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題を発見し、仮説を立て、歯周医学研究計画が立案できる
- ② 歯周医学の臨床疫学研究手法の理論を理解し実践することができる
- ③ 歯周医学の臨床介入研究手法の理論を理解し実践することができる
- ④ 歯周医学の動物実験の理論を理解し実践することができる
- ⑤ 歯周医学の研究の現状を理解した上で、プレゼンをすることができる

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	50%	0%	0%	0%	50%	0%

評価の要点

- ・レポートは、授業計画の5項目について課題を提出する。10%×5=50%
- ・実技は、授業計画の5項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×5=50%

理想的な達成レベルの目安

歯周医学実習の理想的な達成レベルは、80%以上とする。